

〔科目名〕 情報リテラシー I				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 アカデミック・コモン ベーシクス	
〔担当者〕 深田 秀実, 佐々木 桐子 FUKADA, hidemi:SASAKI, toko			〔オフィス・アワー〕 時間: 初回授業の際にお知らせします 場所: 同上			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 近年, スマートフォンをはじめとするモバイル機器や SNS などの普及により, 大量のデータが日々生み出され, 流通し, 蓄積されている. また, コンビニエンスストア等のレジ端末や銀行の ATM など, 我々の生活には情報通信技術 (ICT) が使われている. 一方で, 従来, 大学での授業や卒業後の会社などでコンピュータを利活用するためには, ユーザが能動的にコンピュータ上で情報を「蓄積・加工・分析」することが求められる. 具体的には, ワードプロセッサ・表計算・プレゼンテーション・コミュニケーションツールなどのアプリケーションを利用する技術 (スキル) を身につけた上で, それらを知的活動の道具として使いこなせることが必要となる. そこで, 本講義では, コンピュータやインターネットに関する基礎知識, 及びアプリケーション等の利用スキルを習得していく. 本講義の授業方法は反転授業形式で行うため, 毎回の授業 (第 2 回目以降の授業) は履修学生が事前学習を行ってきたことを前提として進める. 従って, この授業を履修する上で最も重要なことは, 学生各々があらかじめ提示されたテキストの範囲や資料等を自ら事前に学習し, 授業に備えることである. これにより, 自ら学ぶ姿勢や独習する習慣を身につける. なお, 本シラバスの内容と各回の授業 (特に初回のイントロダクション) で説明した内容に相違がある場合は, シラバスの内容より授業で説明した内容のほうが優先される.							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 この授業では今後履修する専門科目や卒業後の実社会で直面するようなテーマを学ぶ. また, コンピュータ上のアプリケーションのいくつかを利用して実践的なスキルを身につける. 同時に「コンピュータを道具として使うこと」の理解を深め, 専門科目での学習や実社会での活動に活かすための基礎を身につけることができる.							
〔科目の到達目標〕 1. メディアから流れてくる情報を鵜呑みにすることなく批判的に捉え, 情報を主体的に読み取ることができる. 2. コンピュータのアプリケーション等を用いて, 分かりやすい文書を作成する等, 目的に合った表現ができる. 3. 人工知能やビッグデータによって社会で起きている変化を理解し, データ・AI の利活用について説明できる.							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 本授業の担当教員は新任を含み, 本学の学生による授業評価はまだ無いが, 前任校における履修学生からの評価を鑑み, 授業での話すスピードや声の音量に関して, 履修学生が聞き取りやすい説明を心がけます.							
〔教科書〕 ・徳野 淳子, 山川 修, 田中 武之: 情報リテラシー (第 4 版), 森北出版 (2022) ・定平 誠: 例題 50+演習問題 100 でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint + 情報・AI リテラシー標準テキスト (Microsoft365/Office2024 対応版), 技術評論社 (2026) その他, 教員が指定する映像教材 (放送大学 数理・データサイエンス・AI 講座) を用いる予定.							
〔指定図書〕 森本尚之, 奥村晴彦: 基礎からわかる情報リテラシー [改訂第 5 版], 技術評論社							

<p>【参考書】 情報倫理ハンドブック, 及び 教員が提示する資料など(必要ときに提示する).</p>	
<p>【前提科目】 なし</p>	
<p>【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等) 授業でのアクティビティ, 課題レポート, 小テスト等の点数などを総合して評価する. 評価方法が変更となった場合は, 改めて提示し説明する. 評価の基準は学生便覧に準ずる. 配分割合は以下となる予定.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業でのアクティビティ : 30% (Web フォーム等からのコメントや進捗報告等を送信し, 提出しているか) ・自学自習に対する小テスト : 40% (知識が定着しているか) ・課題に対するレポート : 30% (Word/Excel/PowerPoint に関するレポートを作成・提出しているか) <p>なお, 期末試験(または確認テスト)を実施する場合は, 評価方法が変更となる可能性がある.</p>	
<p>【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義を受講する学生は初回の授業に必ず出席して下さい. 本講義を受講するための重要な説明をします. ・講義の終わりに質問を受け付ける時間を設ける予定なので, 不明な点は質問して下さい. 	
<p>【実務経歴】 担当教員:深田 = 実務経験がある(地方自治体勤務時において, 行政情報システムの運用, 情報セキュリティに係るインシデント対応(セキュリティ事故対応), コンピュータ・ネットワークの管理などを担当していた)</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内 容: 講義室(204 実習室)に関するガイダンス, 本学のポータルサイトとメールシステム, 本講義で用いる Google Classroom の概要, 次回講義に向けた課題(事前学習)の提示などの説明を行う. また, Office ソフト(Word/Excel/PowerPoint)に関する自学自習の進め方を説明する. 教科書: 配布資料など</p>
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 情報社会を概観する 内 容: 急速に進展する情報社会の中で, 私たちの生活にどのような変化が起こっているのか, また情報社会の課題は何かという点について学ぶ. 教科書: 第 1 章</p>
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか): インターネット 内 容: 第 3 回の授業では, 情報社会に必要な不可欠なインターネットの歴史や仕組み等を学ぶ. 教科書: 第 2 章</p>
第 4 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 情報倫理とセキュリティ 内 容: 情報社会における情報セキュリティに関する課題として, マルウェアの概要などについて学ぶ. また, 著作権の基礎知識, 「データを守る」うえで重要となる情報セキュリティの 3 要素や匿名加工情報などについて学ぶ. 教科書: 第 3 章, 情報倫理ハンドブック</p>
第 5 回	<p>テーマ(何を学ぶか): メディアリテラシー 内 容: 現在の情報社会では, 受け取る側が情報の取捨選択をする必要に迫られている. 第 5 回の授業では, メディアからの情報を批判的に読み解くためのメディアリテラシーを学ぶ. 教科書: 第 4 章, 情報倫理ハンドブック</p>
第 6 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 情報とコンピュータ 内 容: 今後実現が期待されるデジタル社会の基礎となる, 情報のはかり方や表現方法を学ぶ. 教科書: 第 5 章</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):コンピュータの管理</p> <p>内 容:第7回では,コンピュータの基本構成, Operating System(OS), コンピュータ・ネットワークの階層構造などに関して学ぶ.</p> <p>教科書: 第6章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 社会におけるデータとAI</p> <p>内 容:情報社会はデジタル社会(Society 5.0)へと変貌しつつある. ビックデータ, IoT, 人工知能(AI:Artificial Intelligence), 生成AI等によって, 社会や日常生活が大きく変化していることを学ぶ.</p> <p>教科書: 第8章 8-1と8-2, 放送大学教材(映像資料)</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):社会で活用されているデータとその活用領域</p> <p>内 容:社会で活用されているデータ(調査データ, 人の行動ログデータなど)に関する概要を学習する. また, データ・シミュレーション AI の活用領域が広がっていることにも触れる.</p> <p>教科書: 放送大学教材(映像資料)</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):データ AI 利活用のための技術</p> <p>内 容: 第10回では, AIに関する基礎的な仕組みを解説する. また, データ解析として, 予測, パターン発見(共通点や意外な関連性を見つける), モデル化とシミュレーション, 汎用 AI・特化型 AI などについて説明する.</p> <p>教科書: 第8章 8-3, 8-4, 放送大学教材(映像資料)</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):データ AI 利活用の現場と最新動向</p> <p>内 容:第11回は, データサイエンスのサイクル(問い, データ収集, 分析, 結果の解釈)の概要を学習する. また, 産業界(流通業など)において, どのようにAIが活用されているかを学ぶ.</p> <p>教科書: 第8章 8-5, 放送大学教材(映像資料)</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):データリテラシー(1)</p> <p>内 容:第12回では, 「データを読む」として, データ分析の基本を学習する. 具体的には, データの種類, データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値, 中央値, 最頻値), 代表値の性質, データのばらつき, データ間の相関, 相関と因果に関して学ぶ.</p> <p>教科書: 放送大学教材(映像資料)</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):データリテラシー(2)</p> <p>内 容:第13回では, 「データを説明する」「データを扱う」として, データを可視化することの意義と留意点を学習する. 具体的には, 棒グラフ, 折線グラフなどのデータ表現を学ぶ. また, データの集計や並び替えなどに関して学ぶ.</p> <p>教科書: 放送大学教材(映像資料)</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):AIの限界と留意点</p> <p>内 容:第14回の授業では, AI やデータを利用する際の留意事項(倫理的・社会的課題(ELSI), 個人情報保護, データ倫理, AI 社会原則など)に関して学ぶ.</p> <p>教科書: 第8章 8-6, 放送大学教材(映像資料)</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):まとめ</p> <p>内 容:これまでの授業内容を振り返る. 時間が許せば, 教科書第7章のアルゴリズムとプログラミングを概説する. また, 講義の進行状況によっては, 最終の確認テストを行う場合がある.</p> <p>教科書: 第1章～第8章</p>
試験	<p>期末試験に関しては, 追って説明する.</p>